

日本物理学会 2023 年年次大会

領域 10 誘電体分科インフォーマルミーティング (IFM) 議事録 (案)

日時：2023 年 9 月 16 日 (土) 17:30-18:15

場所：東北大学川内キャンパス A102 会場 (参加人数：約 22 名)

進行：領域 10 誘電体分科運営委員 藤原孝将 (QST)

書記：領域 10 誘電体分科運営委員 押目典宏 (QST)

1. 2023 年春季大会領域 10IFM (2023 年 3 月 24 日 (金)) 報告

下記報告が藤原運営委員よりあった。

1.1. 大会運営

2023 年度から 9 月を年次大会 (現地)、3 月を春季大会 (オンライン) とする。

現地開催でのオンライン配信は無しとする。現地開催での「オンライン配信の有無」及びそれに伴う「参加費の値上げ」に関する希望調査の結果 (過半数が「参加費据え置き」を希望) を反映したものを。

1.2. 人事

領域代表として是枝聡肇氏 (立命館大、前領域副代表)、領域副代表として三原基嗣氏 (大阪大、フォノン分科) の就任がそれぞれ承認された (任期：2023 年 4 月～2024 年 3 月)。

次期領域運営委員として寺澤有果菜氏 (熊本大、誘電体分科) の選任が確認された (任期：2023 年 10 月～2024 年 9 月)。

2. 次々期誘電体分科運営委員の選出

次々期領域運営委員として深田幸正氏 (JAEA) が藤原運営委員より推薦され、承認された (任期：2024 年 4 月～2025 年 3 月)。

3. シンポジウム開催状況 (含む領域 10 共催)

領域 10 主催が 2 件、共催が 5 件あり、現地開催再開のためか、過去 2～3 年で最多となった。

- ・電子強誘電体の新展開—新現象から新機能の創出へ (領域：10、5、7、8)
- ・コンプトン散乱 100 周年：物性研究における新展開 (領域：10、2、3、8)
- ・新たなフェーズを迎える次世代放射光施設 (領域：ビーム物理、領域 5、10)
- ・サイクロトロン加速器と応用のフロンティア (領域：ビーム物理、領域 5、10)
- ・素粒子現象から巨大構造物までを透視するマルチスケールミュオンイメージングの創成と発展 (領域：ビーム物理、素粒子実験、宇宙線・宇宙物理、10)
- ・ナノ物質材料が拓く世界 (領域：9、4、10)
- ・次世代放射光 NanoTerasu による最先端軟 X 線分光とその展望 (領域：5、ビーム物理、10)

4. 意見募集/議論

下記議題について意見募集及び議論を行なった。

4.1. シンポジウムの英語化に関して

オンライン方式が浸透したので 1 件でも英語講演を含むシンポジウムの全講演を英語化出来ないか、領域委員長より意見募集があった。

誘電体分科としての意見は、何を目的に、誰のために英語化するか等の判断材料が不足しているということであった。まずはシンポジウム英語化を試行した前例について情報提供を要望することとなった。

4.2. オンラインでのポスターセッションに関して

ポスターセッションはオンライン開催では、Zoomはブレイクアウトルームが使いにくい、Remo等有料サービスの導入は参加費値上げが必須、等の問題がある。

誘電体分科としての意見は様々あり、Remoは仮想空間のため発表者等がどこにいるかわかる良さがある、一方でそのために参加費値上げというのも首肯しづらい、コアタイムがあると聴講側はありがたい、そもそも領域ごとに事情が異なり領域10ならば全員口頭発表が可能では、等の意見があった。

4.3. プログラム編成のやり方に関して

領域11より、プログラム編集の効率化のために、領域委員間のやりとりを円滑化しリアルタイムかつ相互にプログラム編集可能とするツールの導入希望があった。ただし現状の参加費では導入可能サービスは限られている。領域10内でプログラム編集のコミュニケーションに導入しているSlackは、領域間連絡での利用が困難であり、リアルタイム編集不可、3ヶ月でやりとりが消去される問題がある。

誘電体分科としては、オフラインでの作業ならその場でのやりとりで話がつくことが多かった、部屋どりについてはかつて参加者数の統計等を参考に決める手法があった、等従来手法を見直す意見があった。

4.4. 計算物理の新領域について

誘電体分科として、全領域を対象に領域横断とするのであれば従来領域の計算物理手法の人が新領域の仕事に時間を取られてしまい従来の領域が体をなさなくなることが心配、学会の領域の設置は手法ではなく物理の内容に基づくべきでは、従来領域・分科に害が無ければ良い、等の意見があった。

5. 各種国際会議等の案内

日韓強誘電体会議（JKC-FE14、立命館大学びわこ草津キャンパス、2024年8月29日～9月1日（仮））の開催について、是枝聡肇氏（立命館大）より告知があった。

6. その他

3連休での学会は宿泊費が赤字となってしまうので避けて欲しいという意見があった。一方で国立大法人化のため土日の方が部屋代の都合が良いのではという意見もあった。

以上。